

## 研究成果概要【Web 公開用】

所 属	東北大学大学院文学研究科
氏 名	鹿又喜隆

※本様式はデータで提出してください

研究の名称	奥羽山脈西側の後期旧石器時代における石器石材の地質・考古学的研究
-------	----------------------------------

関連分野	考古学、地質学
------	---------

※研究分野（地質学／考古学／教育学等）について記載してください

対象フィールド	男鹿半島・大潟ジオパーク、鳥海山・飛島ジオパーク
---------	--------------------------

※研究対象のジオパーク名（複数の場合は全て）記載してください

キーワード	後期旧石器時代、石材、頁岩、黒曜石
-------	-------------------

※研究に関するキーワードを 3 点以上記載してください

## 研究成果概要（A4 用紙で 1 枚程度）

本研究では、奥羽山脈西側の石材調査を実施し、本学が研究中の後期旧石器時代に属する山形県丸森 1 遺跡、八森 A 遺跡、角二山遺跡、岩手県大台野遺跡から出土した石器の石材との比較を行い、それらの石材利用の特徴を明らかにすることを目的とする。丸森 1 遺跡の発掘調査報告書『東北文化資料叢書第 13 集 最上川流域の後期旧石器文化の研究 5』にて、秋田県南部から山形県北部かけての子吉川、横手川、皆瀬川、成瀬川、真室川、月光川、日向川、雄物川、石沢川、鮭川、西川、荒瀬川の各河川での石材調査の結果を報告した。これによって、石材の視覚的な特徴を明瞭に示すことが可能になった。そして、丸森 1 遺跡では、在地性の石材を主に使用して石器製作を行っている可能性を示した。なお、上記河川での石材の特徴についてカラー写真を利用して概説した。一方で、詳細な石材の特徴については、今後改めて報告する予定である。

また、男鹿半島から秋田県北部にかけての石材調査も実施したが、こちらの成果は山形県角二山遺跡の発掘調査報告書（2023 年度刊行予定）にて報告する計画である。上記 4 遺跡では蛍光 X 線分析装置を用いた黒曜石産地分析を実施しているが、特に男鹿半島の黒曜石が搬入された角二山遺跡と大台野遺跡の資料との比較検討が本研究を通して実施される。両遺跡では、石器石材の中心は珪質頁岩であるため、黒曜石に伴う珪質頁岩が秋田県北部から搬入されていないかを検討する必要がある。そのために、詳細な石材の特徴の把握が必要であり、現在分析を進めている。

こうした石材利用の特徴は、遺跡内での石器の製作や使用、廃棄等の行動と連鎖しており、

各遺跡、各時代の行動様式の特徴を端的に示している可能性がある。本研究では、後期旧石器時代の初頭（大台野遺跡・約 3.4 万年前）から中葉（丸森 1 遺跡・約 3 万年前）、終末（角二山遺跡・1.8 万年前、八森遺跡・約 1.6 万年前）の資料を分析しており、各遺跡での接合資料による石器製作の復元や、使用痕分析による機能推定を実施しているため、総合的な検討が可能となっている。これらの研究成果を随時発信していきたい。